

Abstract

米豪同盟と中国—「二重のトレンド」の顕在化

石原 雄介（防衛研究所 研究員）

米豪同盟において中国の台頭を巡る「二重のトレンド」が顕在化しつつある。一方で近年同盟の対中協力は深まりつつあり、南シナ海においては米比演習への豪軍の参加や対比能力構築支援に関する連携が進められている。また、オーストラリアは南シナ海を念頭に海空軍を中心とした長期的な豪軍の戦力増大が進めているが、そこにはアメリカの同盟国として同国の「重み」を高める意味が込められている。他方で、このような中でも、中国を巡って米豪両国の足並みが乱れる場面も引き続き観察されており、更にこのような対中ギャップの問題は近年複雑化しつつある。対中関与や中国の対豪投資に関する米豪間の不協和音やオーストラリアの対中配慮による同盟協力の制約など、従来以上に多様な分野で米豪間の対中ギャップが観察されている。米豪同盟は対中協力の深化と対中ギャップの複雑化という「二重のトレンド」という課題に直面しているといえよう。

『国際安全保障』第44巻第1号（2016年6月）30—48ページ。